
東方仮面英雄 仮面ライダー×東方

ポケモV3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方仮面英雄 仮面ライダー×東方

【Nコード】

N3451BA

【作者名】

ポケモV3

【あらすじ】

様々な世界を旅してきた、門矢士。

彼とその仲間が今回来た世界は、『弾幕ごっこ』と呼ばれるルールがある世界だった…。

デイクイド組はもちろん、東方のキャラ、火野映司などのライダーも登場します。

大体全員が主役です。

CARD 1『土一行、幻想卿へ』（前書き）

はい、色々詰まってるのに投稿しました。
頑張りますね。

あ、ユウスケは空気じゃないです

CARD 1『土一行、幻想卿へ』

ここは、とある世界にある『光写真館』。

この写真館：謎の力を持っていて、何故か様々な世界に移動することが出来る。

その中には、この世界での役割を終えた土達がいた。

「さあ、次はどんな世界だ…？」

「次はどんな仮面ライダーに会えるんでしょうか…ワクワクしますね、ユウスケ」

「その気持ちは分かるよ、夏海ちゃん。だから押さないで…うわーっ!？」

夏海に押されたユウスケがぶつかった反動で、写真館にあった背景ロールが回転し、絵が表示された。

表示されているのは…何処かの神社。

「何の世界だ？まあ、行ってみるか」

「おい、ちよつと待てよ土ー!」

場所は変わり…

『博麗神社』

「上がるわよ、霊夢」

「あら、紫？何の用？」

紫と呼ばれた女が、この博麗神社に住んでいる少女…『博麗霊夢』

を呼んだ。

「異変よ。しかも、かなりヤバイレベルのね」

「はあ…また異変？最近よく起こるわね…」

「でも、今回はいつもよりヤバイわ。」

「だから、助っ人を呼んでおいたわ」

「助っ人？誰よ」

「それは自分であって確かめなさい。」

それじゃ私はスキマを使って帰るわ」

『スキマ』という能力を使って空間に穴を開け、帰っていく紫。

「…異変、ねえ…」

霊夢はお茶を入れ、縁側で『助っ人』が現れるのを待つ事にした。

『…博麗の巫女、計画の邪魔となる存在…殺してやる』

何処からか自分を狙っている、本来なら幻想郷にいるはずのない…

！『カマキリヤミー』がいると知らずに。

『東方仮面英雄 仮面ライダー×東方』

「ここか…次の世界は」

「…ってあれ？土君は？」

またまた言葉を失ってしまった。

それもそうだ、今まで写真館だったはずの建物が…

…『門矢神社』という神社になっていたのだから。

「「「写真館がああああああああ!?!?!」」」

士一行…今回の旅は恐ろしく長くなりそうだ。

…次は…OOO『オーズ』SIDEプロローグ。

CARD 1『土一行、幻想卿へ』（後書き）

はい、とりあえず1話目終了。
若干短いのは気にせず。

少々裏話を。

本当はタイトルが『東方仮面男 仮面ライダー×東方 ♪ だったん
ですが、
士を女体化するにあたって、タイトルと矛盾するので、変更しまし
た。

ではー

CARD 2 『妖怪とライダーと博霊の巫女』（前書き）

士「どうして俺を女にした？」

すいませんやりたかっただけです。
士「そうか…本編スタートだ。」

CARD 2 『妖怪とライダーと博霊の巫女』

士達が『門矢神社』の前で騒いでいる頃…

また一人、仮面ライダーが幻想入りしていた…

何処かの森…

そこを、一人の青年が歩いていた。

「ここは…？ついちよつと前まで…アフガニスタンにいたはずなのに？」

青年の名は『火野映司』。

かつて…いや、今も『仮面ライダーオーズ』として戦っている。

彼は、よく世界中を旅している。

本当なら、今ごろアフガニスタンにいるはずだが…

どうやら幻想郷に来てしまったらしい。

「明日のパンツがあるのが幸いだよ…

誰かに、ここが何処か聞かないと」

とりあえず人を探す事にした映司。

すると、森の奥から黒色の服を着た金髪の少女が現れる。

「あ、人…かな…？ここが何処か聞いてみようかな。

あのー！すいませーん！」

呼ばれたのが分かったのか、映司に近づいてくる少女。

映司は、早速ここが何処か聞く事にした。

「君って、ここが何処か分かる？」

「ここ？ここは幻想郷。『全てを受け入れる場所』よ」

「全てを受け入れる場所…か…」

「じゃあさ、こちら辺に人が住んでる所ってある？」

「質問の多い人間ね…」

「まあ答えるけど。」

少女説明中…

「つまり、この森を抜ければいいんだね？」

「うん」

「ありがとう！それじゃ」

「…いや、待ちなさいよ」

説明を聞き終わったため、森を抜けようとする映司を呼び止める少女若干だが、妙なオーラが出ている

「森を抜けようとするのは構わないけど、その前に私の質問に答えて」

「質問…？別にいいけど」

「あなたは…」

少女…『ルーミア』は映司にこう質問した。

「…あなたは『食べられる』人類？」

『博麗神社』。

「…紫の言っていた助っ人はいつ来るのかしら」
縁側でお茶を飲みながら助っ人を待つ霊夢。

「…煎餅でも食べようかしら」

彼女がそう思った矢先…

…森から、爆発音のような音が聞こえた。

再び『森』。

「…もしかして、弾幕一発で死んじゃった？」

地面から出た煙を見ながら呟くルーミア。

呟き終わった頃に、煙が晴れてきた。

しかし…

「あ、あれ…？」

…そこに、映司はいなかった。
間一髪で避けたようだ。

「何処に行ったの？」

「ちょ…いきなり妙な物撃つって…
酷くない!？」

一本の林から映司が現れる。

「へえ、ただの人間が弾幕を避けるなんて…久々にご馳走な予感だわ」

「なんか先気から物騒な事言ってるけどさ…聞き忘れてたね。君は誰だい？」

「私はルーミア。人間を食べる『妖怪』よ。」

「よ、妖怪…!？」

映司は驚愕していた。

それもそうだ。普通、妖怪と聞いたら…誰でもおぞましい姿をした化け物を想像する筈だ。

それが…こんな少女が妖怪と聞いたら、誰でも驚く。

「まあ、誰でも普通は驚くに決まってるわ。

じゃあ、食べられてくれる？」

「…それは無理だね」

「え？」

「俺は、まだ死ぬわけにはいかない。

取り戻したい、仲間がいるから」

そう言う映司の手には、オーズドライバーとメダルが握られている。

…戦うつもりの様だ。

「…変身！」

『タカ！トラ！バッタ！ タットツバ タトバタットツバツ』

…幻想卿に、『仮面ライダーオーズ』が現れた。

CARD 2『妖怪とライダーと博霊の巫女』（後書き）

はい、2話です。

まだあんま東方知らないので、Wiki見ながら執筆してます。

映司の言う『取り戻したい仲間』：分かりますよね？

次回：VSルーミアと、映司と霊夢の出会いです。
お楽しみに！

CARD 3 『神社と出会いと映司居候』（前書き）

ほぼ初めて書く戦闘シーンなので、
ちよっとアレかもしれません…

では本編をどうぞ！

CARD 3 『神社と出会いと映司居候』

「…やっぱり気になるわね」

霊夢は爆発音の事が気になって仕方がなかった。

無視しようとは思ったらしいが、やはり気になるらしい。

もしかしたら、異変の前兆…？

霊夢は、そう考えてもいた。

「よっ、邪魔するぜ霊夢」

「魔理沙？言っておくけど、煎餅は上げないわよ」

博麗神社に、一人の女性がやってきた。

彼女の名は霧雨^{きりさめ} 魔理沙^{まりさ}。

霊夢と共に様々な異変を解決してきた人間で、普通の魔法使いだ。

そもそも、博霊の巫女の役割は『幻想郷にある結界の管理、異変の解決』であって、

魔理沙はある意味、その手伝いをしているのだ。

「霊夢、あの爆発音…」

「貴女も気になってたの？」

「やっぱり、異変の前兆なのかしら…」

考える霊夢。

その霊夢に向かって…

「…！霊夢！危ない！」
「！？」」

突然、霊夢達に向かって緑色の衝撃波が飛んでくる。
幸い、二人共避けることが出来た。

「な、なんだ…！？」

森の茂みから、カマキリを模した怪物が現れる。

・カマキリヤミーだ。

「な、何これ…！？妖怪じゃ…ない…！」

「…霊夢！ここは私が何とかする！」

お前は森の方に行け！」

「っ…分かったわ。頼んだわよ」

森の方へと向かって行く霊夢。

『逃がさん…！』

「おっと、お前の相手は私だけ？」

カマキリヤミーに弾幕を放つ。

カマキリヤミーはそれを避けて、魔理沙に向かって行く。

「おっと…簡単にはやられないぜ！」

カマキリヤミーの攻撃を避け、宣言する。

『森』。

そこでは、映司の変身したオーズと、ルーミアが戦っていた。

「何それ…？妙な歌も聞こえたけど」

「歌は気にしないで！」

「まあ、ただの人間ではないのは分かったわ

どちらにしろ食べちゃうけど」

「だから物騒だってば！？」

『食べる』だとか言うルーミアにツッコミを入れるが、それを無視してオーズに弾幕を撃つ。

「話くらい聞いてよ！」

トラクローを展開し、弾幕を避けながらルーミアに近づき…

「はあっ！」

「きゃあっ！？」

トラクローでルーミアを攻撃する。

ただし直撃はさせず、肩を少しかするようにして攻撃する

「っ…！やつぱりただの人間じゃないわね」

「そりゃあ仮面ライダーなんで…」

「そーなのかー」

「じゃあ、これはどう？」

夜符『ナイトバード』

ルーミアからオーズに向かって、円弧状に青色の弾幕が発車される

「えっ…!？」

避けようとするものの、ほとんど当たってしまい、攻撃を食らった反動で地面に落下してしまった。

「…っ！痛っ…」

「駄目だったみたいね。

じゃあ早速…」

「…いや、まだだからね？」

「？」

「オーズは無限の可能性を秘めている…

まだまだ戦える！」

『タカ！クジャク！バツタ！』

タトバコンボからタカジャバに変身し、タジャスピナーを構える。

「はあっ！」

そこからクジャク光弾を発射し、ルーミアに向かって放つ。

ルーミアは、オーズが弾幕の様な物を発射したのに驚いてしまい、避けることが出来なかった。

「っ…！今の弾幕の様な物といい、何か不思議ね…」

「よし、このまま…」

オーズは更に攻撃しようとするが…

「待ちなさい」

二人を止めるように声がする。

「…？」

「この声…まさか…」

「ルーミア…また勝手に人を襲ったの？」

声の主は、霊夢だった。

「げっ…博麗の巫女」

「げって何よげって。とりあえず帰りなさい。

人を襲うのくらい、いい加減やめなさいよ…」

「むう…」

ぶー、とでも言いたそうな顔をしながら帰っていくルーミア。

いつの間にか変身を解いていた映司が、霊夢に話しかけ始めた。

「あの…助けていただいてありがとうございます。」

「いや、貴方普通に戦ってたじゃない…」

「…まあ、そうですね。」

「まあいいわ。」

私は博麗霊夢。貴方は？」

霊夢に聞かれ、映司は答える。

「俺、火野映司って言います。」

後、こちらへんに家とがあります？」

「家…？」

「あ、俺この世界初めてで…」

CARD3『神社と出会いと映司居候』（後書き）

はい、CARD3でした。

戦闘シーンは難しいですね！
まあ頑張ります。

次回、某ヤンデレドラゴン登場です。
では！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3451ba/>

東方仮面英雄 仮面ライダー×東方

2012年1月10日21時51分発行